

2011年3月18日  
東日本旅客鉄道株式会社

## JR 東日本における自営電力の最大活用と電力使用量の節減について

鉄道輸送には列車の運転用電力のほか、信号、運行管理システム及び駅の電灯などの電力が必要となります。

当社では、新潟県十日町市・小千谷市に信濃川発電所（水力）、神奈川県川崎市に川崎発電所（火力）を有しており、発生させた自営電力は、東京電力から供給される電力とあわせて首都圏列車の安定運行に用いております。

現在、可能な限り自営電力の供給量を増加させるとともに、使用する電力を節減することにより電力を生み出すなど、首都圏の電力の確保に協力させていただいております。

### 1. 自営電力の最大活用

#### (1) 信濃川発電所

十日町市長のご提案及び国土交通省のご指示により、地震発生前よりも放流量を低減することにより取水量を増して発電量を増やしているほか、首都圏の電力需要のピークにあわせた発電が可能となるよう、水の放流時機の最適化を図っております。

#### (2) 川崎発電所

燃料供給の範囲内で最大限可能な発電を実施しております。

### 2. 電力の使用量の節減

節電のため、次のような取り組みを実施しております。お客さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

#### (1) 駅での取組み

- ・日中時間帯のコンコース、ホームの消灯または減灯
- ・エスカレーターの運行停止（長大なもの、階段が併設されていないもの等は除く）

#### (2) 列車に関する取組み

- ・運転本数の削減
- ・暖房の停止または設定温度を下げる

【自営電力の供給とその使用状況】18:00～19:00の実績（単位：万kWh）

・主に自営電力で運転している線区：山手、京浜東北、中央、高崎線など

	地震発生前(3/10) 【A】	3 / 17 【B】	【B - A】
自営発電所の 供給量	56	62	+6 (+11%)
うち JR の消費量	56	41	-15 (-27%)

東京電力への協力量 21( )

21万kWhは、川崎発電所の最大出力発電機1台分に相当します。

なお、今後とも同様の取組みを進めてまいります。